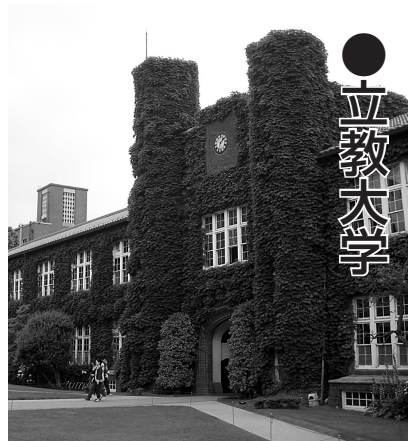




キャリア支援に向けた 立教大学の新たな取り組み

立教大学 キャリアセンター

副部長 山下恭弘

学生を取り巻く就職環境をめくり、企業が求める学生像が「協調性」から「自立」へと変化する中で、本学では2000年4月から、仕事・職業を含めた自立した個人としての自分らしい生き方への気づきとなる機会を提供することをねらいとして、全学横断的な教養教育課程の中に総合教育科目「仕事と人生」を開講して以降、02年には従来の就職部をキャリアセンターに改編し、さらに05年にはコオプ教育・インターシップオフィスを設置し、各学部との相互連携を図りつつ、キャリア支援教育に取り組み今日に至っている。

キャリアセンターでのきめ細かい対応

キャリアセンターでは、現在、学生への個別キャリアアドバイス・カウンセリングを重視しているが、これは企業が求める学生像が変化し、早期離職率も上昇するなどの状況が生まれる一方で、学生は自身のキャリアを早期から考えることが強く求められているにもかかわらず、未成熟な状態のまま、大人としての認識を持つことが困難な状況にあることを危惧しているからである。そのためキャリアセンターでは、ほぼ全員の職員がキャリアカウンセラーの資格を有し、学生の多様な相談内容に対し、きめ細かく対応している。

08年度は就職希望者実数2700名から、延べ8千件に上る相談を受け、最

繁忙期には夜9時過ぎまで対応してきた。

相談対象の多くは3、4年次生であるが、1、2年生からの相談も受け付けている。もちろん、学生の進路選択・就職支援に資する各種プログラムも低学年から4年次を対象として実施しているが、特に就職支援においては近年、「マスから個への支援」に軸足が移っていると言っている。

コオプ教育・インターシップオフィス

また、02年に発足したコオプ教育・インターシップオフィスは、セミナー、ガイダンスなどの事前研修、期間中の報告および事後研修に至る細かなケアを基本として、本学独自のインターシッププログラムを開発し、最終的には学生と派遣先企業が一堂に会しての確認発表会を持つまでになっており、各段階での実施プロセスにおいても、専任スタッフが学生一人ひとりに丁寧にかかわることを大切にしている。

さらなる支援体制整備へ

09年度は、学生のキャリア形成支援に大学として一層積極的に取り組んでいく視点から、全学的取り組みの向上、学生情報の一元化促進、戦略的な情報収集等を目指し、現在2部局に分かれているキャリアセンターとコオプ教育・インターシップオフィスを

1部局にまとめ、相互の協力体制を強化していくとともに、全10学部の教員組織をはじめ学内の学生支援を担当する事務部局との連携を強めていくことを課題として掲げており、そのために、11月を目標として事務組織の再編をはじめ、全学的なキャリア支援体制の整備計画を進めている。

この一連の動きは、本学におけるキャリア教育を「学生の自律、自立を促す発達促進教育」、「社会と大学の協働教育」と位置付け直し、「学士課程教育」の中で、われわれ教職員が一体となって、学生の成長発達をいかに支援していけるかとの問いへの答えでもある。学生が在学中に充実した大学生らしい学生生活を送り、とりわけ、正課教育において、主体的に自らのキャリア形成に取り組めるよう支援していくことが最も大切であると考えている。



アソビゴコロを取り入れたキャリア支援



自由が丘産能短期大学
キャリア支援センター



自由が丘
産能短期大学

火花飛ぶキャリア支援センター

「カチツ、カチツ」…今日も部屋の入口で「火花」が飛んでいます。厳しい就職環境に飛び交う火花でなく、日本古来の風習の「火打ち石」です。

「行つてらっしゃい。がんばつてねー」「行つてきますー」自由が丘産能短期大学キャリア支援センターでは、就職試験前に立ち寄った学生に、合格祈願の思いを込めて、学生の右肩口に火打ち石を打ちかけ、送り出します。

本学はビジネス実務を学ぶ短期大学として在籍者数の95%以上が就職を希望し、毎年ほぼ100%の就職決定を果たしています。今年度は6コース460名の学生に対して担当制をしいた5名のスタッフで、「顔の見える」「学生との距離が近い」支援をしています。冒頭の火打ち石も就活支援の一環です。

アソビゴコロ支援策

今年のような先行き不透明な厳しい環境下では、ある意味アソビゴコロを取り入れた取り組みが、学生の緊張、ひいては私たちスタッフ側の緊張を解き、就職本来の目的を押さえ、学生一人ひとりの本質を捉えた支援につながると考えます。

他にも学生に好評なアソビゴコロ支援策をいくつか紹介させていただきます。・「たまご通信」…2週間に一度の情報誌。スタッフ手書きのキャラクターを設定し、内容は求人情報、学内説明会

日程、コラムなど。こちらを入手しに学生は相談コーナーへ足を運びます。

・「たまごノート」…相談待ち時間等に利用される自由記述ノート。就活の悩みや喜びのホンネが書かれてあり、スタッフが一つひとつコメントを書き入れるコミュニケーションツール。

・内定ダルマ…「自分の力を出し切れますように」と念じて頭をなでるとパワーをもらえる、合格運のダルマ。試験前に学生が触っていきます。

・「心に効く魔法の杖」(ソニーマガジンズ発行)…希望をもたらすという書物占いで、学生の表情が明るくなります。

・ホワイトボード…「やりたいことがわからない」「どう動いたらいいかわからない」…学生からよく吐露される言葉です。このような混乱状態の時、ホワイトボードに一緒に向き合い、気持ちや考えを書き出し整理します。すると、マイナスの感情に支配されていた自分を冷静に、客観的に見られるようになり、問題解決の手がかりが見つかったり、行動計画につながります。

心の中で渦巻いていたものが可視化され、さらにコピー機能でプリントアウトされると「おおっ！」と驚く学生。ヤル気のツボが押される瞬間です。

私たちが大切にしていること

私たちはまず行動することを重視し、様々な支援策を講じます。行動したら、共に体験を振り返り、気づきをもたらし、その意味を考えさせ、言

語化する。そしてまた行動する…。決定するまで何度でも個別相談に応じます。

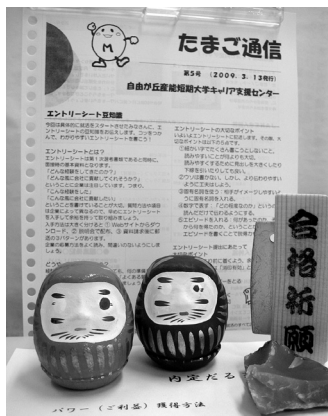
行き詰まっていたのが、話をする中で視点が広がり、経験に肯定的な意味づけができるようになります。内定報告を受けた時はもちろん嬉しいですが、なにより、活動当初、自己効力感の弱かった学生が小さな成功体験を積み重ね、精神的な成長を遂げ、社会人として自立の片鱗が見られるまでに変化を遂げた姿を見られるプロセスに立ち会えたことが一番嬉しく思います。

そして卒業後のサポートへ

卒業後も支援は続きます。「プラスワンサポート」として昨年からは、早期離職を防ぐべく、職場での悩み相談に応じ、年3回「プラスワン・レター」を発行しています。昨年1年間で107件の相談がありました。

幸せな人生を歩んでもらうことを願い、いつどんな時でも安心して相談できる場所でありたいとスタッフ一同思いながら日々努力しています。

(義間直美)



就活支援グッズの一例